様式３

会　　議　　録

会議名 （審議会等名）		相模原市立中学校給食検討委員会（第２回）		
事務局 （担当課）		学校保健課　電話０４２－７６９－８２８３（直通）		
開催日時		平成２５年７月１８日（木）　午後１時～３時		
開催場所		城山学校給食センター　２階　会議室		
出席者	委　員	１１人（別紙のとおり）		
	その他	０人		
	事務局	４人（学校保健課長、他３人）		
公開の可否		■可　□不可　□一部不可	傍聴者数	５人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		１　開会 ２　あいさつ ３　議題 （１）前回の検討事項の整理について （２）アンケートについて （３）その他 ４　閉会		

審　議　経　過

主な内容は次のとおり。（○は委員の発言、●は事務局の発言）

1　開会

2　あいさつ

吉岡会長あいさつ

3　議題

（1）前回の検討事項の整理について

資料１及び２に基づき、事務局より説明を行い、質疑を行った。

○　望ましい姿が、近い将来遠い将来とも選択制のままとなっているが、現状維持では問題ではないか。何かビジョンはないのか。

●　前回の委員からの意見をもとにした場合、当てはめていくと資料のような形になる。選択制のままについては判断しにくかったので、こうした資料にしたものである。

○　望ましい姿の中に選択制のままでいいのかということもあるが、最終的にデリバリー方式のあり方をどう改善して行ったらいいのか、相模原の給食をどのようにしていくのがいいのか、もう少し議論を深めて行きたい。

○　デリバリー給食は、これまで喫食したことがないが、喫食率が５０％程度では学校給食と言えないのではないか。給食当番がいて、全員で後片付けをする。こうした一連の動作が学校給食の一貫である。センター方式がいいが、予算が削られているので、難しい面もある。また、給食費未払いの人がいるので困ることもある。

○　アレルギーへの対策や財政面を考慮すると、現在のデリバリー方式になる。給食センターを整備できない現状では、小学校と同じような給食調理場というわけに行かない。

●　財政面については、各自治体とも厳しい状況にある。市も起債をしている状況にあり、経済も低迷状態にある。生活保護や高齢者など、扶助費の予算が増えている状況にある。教育委員会のでは、前年度並みの予算を確保しているが、学校への予算は減っている状況にある。これは、昭和４０年代、５０年代に建設した学校の改修等を実施する方への予算に回っているためである。単独調理場も５４校にあるが、１箇所整備するのに３億数千万円かかり、学校給食センターでは、約１３億円程度かかる。年１校では、５４年かかってしまい、財政的に余裕があればいいが、全校に給食室を整備することは難しい。学校現場が最優先ということにでもなれば分からないが、市は幅広くサービスをする必要があり、ひとつのところに特化するのは難しい。

○　家庭のニーズに応えるには、選択制で、注文することもしないこともできる。完全給食になるとこういうことができなくなる。デリバリー給食は、家庭のニーズにあっている。喫食率が下がっているが、栄養バランスが良く、生徒が食べたいと思うメニューが増えてくれば良い。家庭が選んで、弁当か給食かを使い分けている。利用者のニーズが減って、給食を作る業者がいなくなると困ってしまう。

○　今与えられている条件の中で、教育に結びつけることができる改善を図られれば良い。アレルギーへの対策や財政面を考慮すると、選択制という以外に現在見つからない。

○　デリバリー給食の学校かセンター給食の学校かを選ぶことができれば、親としては、センター給食を選ぶ。遠い将来は、全員喫食を目指し、近い将来では、財政面もあり、センター給食とデリバリー給食を併用していくことになる。センター給食では、アレルギーのある生徒以外は全員喫食であるが、デリバリー給食では、嫌いなものがあるので、給食を食べないという選び方はよくないが、給食でバランスの良いものが食べられるようになり、好き嫌いではなく、子どもの成長や栄養面を考えての選択制でも良い。

○　現在の選択制でも良い。でも今は高校生の子どもがいるので、中学生の子どもの分と併せて、弁当にしている。栄養面のことを考えると、弁当では厳しいと思う。

○　中学生の男の子がいるが、親とのコミュニケーションを取る年齢でもなくなっている。反抗期でもあり、おだててもミルクを飲むこともしない。親が頼んでも、子どもがパソコンで勝手にキャンセルしていることもある。給食室は、各校１つないといけないのか。小学校も児童が減ってきている。小学校で作った給食を同じ学区の中学校にもっていくことはできないのか。何億円もかけて新たな給食施設を作る必要はないのではないか。今日、センター給食を試食して、味が濃いわけでもなく、汁物の暖かいものがあった方がいいと思った。

●　城山学校給食センターで給食を作るには、３，０００食がやっとである。現在、小学校では、平均５００人、中学校では、４８０人くらいの児童・生徒がいるが、大規模校では、小学校で１，０００人近くいる。給食調理場の能力としては、１，０００人くらいまでがやっとである。

○　子どもが弁当の方がいいといっているので、弁当を持参させている。忙しいときには、給食にしたい。できれば、給食にしていきたいが、結果的に弁当になっている。今の中学校給食は、バランスはいいが、給食ではなく、弁当なのではないか。子どもたちは、小学校の給食をイメージしている。給食という名称を変えたほうがいいのではないか。今日、センター給食を試食したものが、給食である。弁当のイメージがあるので、喫食率もなかなか上がっていかないのではないか。１食３００円は安い。コンビニでも４００円はかかる。本人が食べたくないというのであれば、無理して食べさせる必要はない。給食センターから中学校に配送するのも現状では、難しい。PTA としても、協力してもっとアピールする必要がある。

○　給食という定義をみんなが知らない。もっと説明する必要がある。６年生を対象に試食会ができれば違うのではないか。

○　喫食率が下がっていくことは、いいことではない。家庭で作ったものをみなし給食とすると、喫食率も良くなる。デリバリー給食自体が、みなし給食なのではないか。センター給食のものが、給食では。遠い将来に向けて方向付けすることが、大事なのではないか。弁当を認めることは、自由度があるが、栄養学的には良くない。

○　遠い将来は、全員喫食の完全給食になるが、現状では、弁当併用制のデリバリー給食と家庭からの弁当の選択制の意見が多い。喫食率は下がってきているが、工夫次第で後から喫食

率はついてくるのではないか。各家庭でのニーズ、栄養バランス、給食費未納者への対応、学校の日課を考えると、当面、現状のままで、喫食率は、給食の内容をいい物にしていくことで後からついてくる。

● 清新給食センターについては、老朽化しているため、現在建設中の上溝学校給食センターに移る。清新小の給食施設改修時は、上溝から清新小まで配送することになる。給食センターとデリバリー給食の違いは、基本的に給食センターでは食器を使っていることと、温かいものがでる、施設が民間の調理施設というところが違うだけで、小学校でも栄養士が献立を作成し、委託の調理事業者が調理を行っていることに変わりがない。

○ 汁物の提供は、不可能なのか。

● 不可能ではないが、配膳時間が少なく、各家庭で選択しているが、弁当持参生徒への配慮が必要になる。

○ 月に何回かでも、汁物があると違うのではないか。

○ 調理事業者からすると、センター給食のような食缶スタイルになると、毎日喫食する人数が違うため、人数変更への対応が大変になる。分量を間違え易く、ひとり分を食缶で減らすのは大変である。汁物は、全員喫食でないと難しいのではないか。

○ 結論はでないけれども、方向性をもって行きたい。遠い将来は、全員喫食の給食を目指して行きたい。全員喫食を視野に入れながら、現状で何か一歩ずつ方向性を見つけていくのがいいのではないか。子どもとのコミュニケーションも男女や家庭で差がある。現状からどう一歩進めていくのか、方向性を見つけて行きたい。

（2）アンケートについて

資料３及び４に基づき、事務局より説明を行い、質疑を行った。

○ アンケートをランダムにやるのは、難しい。例えば、ある中学校でアンケートを行うクラスをどのように抽出するのか。

● クラスの決め方についても、ランダムなものとなってくるのかと思う。

○ クラスの片寄りより、平均的なクラスになるのではないか。アンケートに真剣に考えてくれるクラスを選ぶことになる。クラスを選ぶときの留意点も含め、学校にお願いするアンケートについては、より良いものにしてほしい。

● 市のアンケートでは、住民基本台帳を基に、無作為抽出で行っている。本当は、今回アンケートを行うにも無作為抽出で実施したいができない。標本数についても、１万人以上であれば、千人もあれば誤差も少ない。生徒に対しては、学校での配布ということになるので、回収率は高いものになる。

○ アンケートに男女欄を設けるのか。

● その予定でいる。

○ 議題１の方向性を見ながら、資料４について、もっとこういう視点があるのか、こういう項目が質問にあった方がいいなど、どんなことを生徒に聞いていけばよいのか。さらに、保

護者や教職員への質問項目につながっていく。

○　デリバリー給食を食べたことがない人について、どのようなものであったら食べてみたいのか、どんな給食なら食べたいのか、質問項目に入れたらいいのではないか。

○　夕食時間についても、食べている時刻を聞くことがいいのではないか。

○　アンケートの内容については、生徒の負担にならないようにしたほうが良い。

○　食に関する知識についての質問について、他の項目と比べ違和感がある。

●　特に現在想定しているものではないが、一般的なものを羅列したものとご理解願いたい。

○　アンケートの実施については、簡易型のように１０分程度のものか、それともロングホームルームのように１時間程度のものができるのか。

○　学校では、授業計画が決まっている。タイミングが合えば、１５分程度のものであれば問題ないが、１時間は無理である。今の中学生を考えると、個人差もあるが、長くて１５分くらいで書ける範囲がいいのではないか。

○　アンケートをした後で、その内容を使えるようなものにする必要がある。アンケートのボリュームにもよるが、長い時間は生徒に負担がある。

○　アンケートとしては、Ａ４片面で３・４枚、Ａ３袋とじで、１枚程度がいいのではないか。

○　デリバリー給食を食べている子、食べていない子に枝分かれしていくような、表記上の工夫が必要である。

○　パソコンでの回答はどうか。

○　中学生では、難しい。紙ベースになる。

○　集計のことを考えると、番号を選ぶような形式になるのでは。

○　国の調査と比較できるような内容にしたほうがよい。

○　次回の検討委員会では、言葉の表現なども含め、アンケートを作成し話し合うことになる。

○　保護者や教職員、業者にも簡単なアンケートを取ることについては、どうか。

○　保護者は、子どもが食べたいといえば、給食を頼んでいる。子どもの気持ちが一番であると思う。業者のアンケートを保護者よりも先にやって、変わるところは変わっていった方がいい。保護者は今やるより、もう少し先にやった方がいいのではないか。

○　まず、生徒、教職員、業者をやって、時期もあるが、保護者は次の段階でもいいのではないか。４者にアンケートを実施し、確認させていただく。

●　資料２の標本誤差のうち、教職員については、全体の母数が１，０００人程度しかいない。資料から、５００人程度にアンケートを実施しないとある程度正確なものにできない。

○　教職員へのアンケートについては、説明していけば大丈夫ではないか。

○　生徒の意見を他に聴く機会はないのか。

●　２学期から、各学校にボイスボックスを設置することになっている。

○　次回は、アンケート形式の資料を作成してもらい、検討していくこととする。

４　閉会

以　上

相模原市立中学校給食検討委員会委員出欠席名簿

	氏　　名	所　属　等	備　　考	出欠席
1	吉岡　有紀子	相模女子大学栄養科学部	会　長	出席
2	伊与　　亨	北里大学医療衛生学部		出席
3	小嶋　理史	相模原市立小中学校 PTA 連絡協議会		欠席
4	小関　和代	相模原市立小中学校 PTA 連絡協議会		出席
5	堺　　千里	相模原市立小中学校 PTA 連絡協議会		出席
6	水野谷　珠世	相模原市立小中学校 PTA 連絡協議会		欠席
7	髙原　麻美	相模原市立小中学校 PTA 連絡協議会		出席
8	黒瀧　直行	新町中学校	副会長	出席
9	北村　正弘	青野原中学校		出席
10	小泉　　勉	旭中学校		出席
11	山本　　真	相武台中学校		出席
12	朴木　　昇	弥栄中学校		出席
13	高橋　純子	城山学校給食センター		出席
14	高橋　陽子	公募		欠席